

現地における課題解決に向けた 産業人材育成支援と 現地の支援機関と連携した企業間交流などを推進



写真1 ウェブ型 OM セミナー
写真2 遠隔セミナー
写真3 T-Cafe
写真4 バスツアー (シェア工場)
写真5 ラボツアー

バンコク支所への相談と 現地の課題

バンコク支所にはタイにおける試験規格、製品などの不具合に対する試験・分析評価や対策方法といった技術面に関する相談が多々寄せられます。バンコク支所には試験分析機器類がありませんので、都産技研の日本国内の担当者あるいはタイ国内における他機関紹介といった対応が主となります。

2019年度は、各種検査機関、分析機関、校正機関の紹介のほかにも「無線機器の認証(NBTC*)」、「職業資格の技能検定(TPQI*)」などを実施している機関や内容に関する相談が寄せられたことが、特徴的なトピックとして挙げられます。また、日本からの現地視察団などに対するタイ事情の情報提供も行ってきました。

これまでの活動から総じて言えることは、タイ現地法人のものづくりの現場における一番の課題は、現地従業員に対する実践型産業人材育成です。そこで、今年度はタイにおける人材育成(教育)にフォーカスしたテーマを重点的に交流会などで取り上げました。

現地における 産業人材育成支援

専門性の高い人材育成支援の取り組みとして、2018年度からオーダーメイドセミナー(以下、OMセミナー)事業を開始しました。OMセミナーは、タイ人従業員の技術レベルを向上させたいという、現地における多くの中小企業の皆さまから寄せられる相談に対応

したものです。日本とは多少異なるタイの事情に合った実践型人材育成の支援のあり方については、重要なテーマとして、より発展させていく必要があると考えています。

今年度は、これを拡張した形となるウェブ会議システムを用いたOMセミナー(以下、ウェブ型OMセミナー・写真1)を初めて実施しました。これまで遠隔セミナーと題して、日本とバンコク支所を専用回線で結び、日本にいる講師によるTV会議システムによる少人数型の技術セミナーを開催してきました。ウェブ型OMセミナーは、ここで寄せられたタイ人従業員にも同内容を受講させたい、という要望に対応したことになります。

ウェブ型OMセミナーは、依頼企業との事前協議により規模、内容をカスタマイズして実施するものです。具体的には、会議室などのセミナー会場設備の確認、インターネット回線を用いるので通信インフラに関する確認、通訳・翻訳の負担や開催までに要する時間などの内容を協議します。

内容がバンコク支所職員の専門性に大きく依存するOMセミナーに対して、ウェブ型OMセミナーの運用によって、講師として、東京の研究員を柔軟に活用できる土台ができました。今年度は、鉄鋼材料の熱処理技術に関する内容をテーマに実施しました。依頼企業からは「社員のモチベーションアップにつながる」、「定期的に行いたい」といったお声をいただき、好評を得ました。現在は、バンコクから日帰りできる範囲での実施になりますが、例えば、東京で開催しているセミナー(都産技研職員によるもの)の開催リクエストなどをお気軽にお寄せください。

バンコク支所は、ASEAN 地域に展開する日系中小企業を支援するため、2015年4月にタイ王国(以下、タイ)のバンコクにオープンしました。タイに進出した企業が現地で抱えるものづくりの課題解決への支援を実施しています。本号では、バンコク支所への相談と現地の課題、現地における産業人材育成支援、他機関との連携による産業交流の推進についての取り組みを報告します。支援対象は、東京都内に親会社を持つ企業に限定していませんので、日系企業の皆さま、ぜひお気軽にご相談ください。

また、遠隔セミナー(写真2)も引き続き開催しました。開催意図として、ウェブ型OMセミナーの普及の場とすることを試みたり、実施したテーマに関わる職員をタイにおける展示会(Metalex 2019)に派遣して、より具体的な相談にも対応できるようにしたりするなど、支援の連続性を考慮しました。

今後も、現地日系中小企業のタイ人スタッフの産業人材育成に寄与するために、日本のリソースの積極的活用を努めていきます。

他機関との連携による 企業間交流の推進

バンコク支所では、タイにおけるほかの支援機関などとの連携による現地企業間交流を目的とした支援の推進も目指しています。

同じ東京都の機関である公益財団法人東京都中小企業振興公社タイ事務所とは、参加企業間の交流の場を提供することを目的とした異業種交流会「T-Cafe」(写真3)を相互に開催してきました。

今年度の「T-Cafe」におけるバンコク支所の回では、タイにおける人材(教育・育成)をグランドテーマにして、「数字で見るタイの教育事情 タイのものづくり産業人材育成における課題」と「企業成長へ繋げるこれからの人財育成“人”資源の最大化とミドルマネジメントの育成」をテーマにした講演とともに、参加者間の異業種交流を目指しました。「大変参考になった」、「情報共有ができて良かった」といった好意的なご意見を多くいただいています。

ほかにも埼玉県タイサポートデスクとは、

タイですます高まる工場へのIoT導入の推進とスマート化に役立つ施設見学として、支所としては初のバスツアー(写真4)となった「タイで推進する工場のIoT導入とスマート化(アマタナコーン工業団地内施設見学)」と題したセミナー/ビジネス交流会を実施しました。例えば、見学先の一つのシェア工場では、加工・組立設備の稼働例について見聞を広めることができたとの感想をいただくなど、盛況となりました。

また、タイにおけるMOU締結機関の一つであるTNI(泰日工業大学)では「ラボツアー」(写真5)を開催しました。施設設備や活動内容について、理解が深まることで、インターンシップなどの人材交流のきっかけづくりとして役に立っていました。

さらに、2019年9月にMOUを締結した株式会社商工組合中央金庫(以下、商工中金)とは、商工中金バンコク駐在員事務所とタイBOI*3共催による日本とタイ企業によるビジネスマッチング商談会を後援する機会を得て、バンコク支所の事業PRを行いました。

バンコク支所の限られたリソースの中では、タイにおける現地支援機関との連携は、非常に重要な活動と考えています。今後もさらなる関係の強化・充実に努めていきます。

バンコク支所に関する詳細は、以下のウェブサイトよりお問い合わせください。

<https://www.iri-tokyo.jp/ques/questionnaire.php?openid=9&check>



*1 NBTC
Office of The National Broadcasting and Telecommunications Commission
(国家放送通信委員会 事務局) タイの無線通信法、電気通信事業法などに基づく技術規則の制定や、基準認証制度に基づく許認可や関係機関の監督などを担当する電気通信サービスの規制機関。

*2 TPQI
Thailand Professional Qualification Institute (Public Organization)
(タイ専門資格機構〈公的機関〉) タイの専門的な職業資格や職業標準の確立とこれに基づく技能検定機関の認定などを担当する公的機関。

*3 BOI
The Board of Investment of Thailand (タイ投資委員会) タイ国内への投資奨励を担当するタイ政府機関。国内外で投資家への便宜を図り、タイへの投資誘致活動や投資の許認可などを担当。



バンコク支所長
あほ ゆうじろう
阿保 友二郎

お問い合わせ
バンコク支所
TEL+66-2-712-2338

バンコク支所外観